

災害看護論演習を行って



令和5年1月10日、3年生が「災害看護論」総合演習を行いました。高階先生、木下係長、京都府支部の方々をスーパーバイザーに迎えて、感染対策を講じながら実施しました。学生は、初めて赤十字の救護服に身を包み、緊張した様子で演習に臨みました。前半は、様々な状況を演じる傷病者役とトリアージを行う救護者役に分かれて、トリアージを実施していきました。最初、瞬時の判断が難しく感じて戸惑っていた学生も症例を重ねるごとに講義で学んだトリアージの原則を思い出しながら実践できるようになっていました。後半は地震による傷病者受け入れを想定した総合演習を行いました。それ

ぞれのチームが指揮、トリアージ、赤・黄・緑・黒のトリアージエリアの役割を事前に考えて演習に臨みました。学生は、「迅速にかつ冷静に判断していくための知識」「自分自身の行動特性」「情報共有の重要性」「救護者も含めたこころのケアの重要性」等多くのことを学んでいました。

この科目は、例年、基幹災害拠点病院としての役割・役割に携わる様々な多職種の方々に講義を担当して頂いています。様々な方々が、学生の成長に関わって下さったからこそ、総合演習の学びに繋がっていると感じました。どうぞ今後とも学校教育にご協力の程、宜しくお願い致します。



写真撮影の時のみマスクを外しています。



前半：トリアージ演習の様子



後半：総合演習の様子

